

絵本「戦争のつくりかた」、短編アニメに

7分半の平和の話

あなたは戦争がどういうものか、知っていますか。そんな問いかけで始まる絵本「戦争のつくりかた」が今秋、映像作家らの手で短編アニメになった。9月に成立した安全保障関連法制にも触れ、2日から都内の複合施設で公開される。



丹下紘希さん

自衛権の行使容認など過去10年間で変化した情報を更新して新装版を刊行した。

40人がリレー

アニメ化は、「日本が戦争に向かって準備が整っていきように感じた」という映像作家たちの違和感がきっかけだった。

多くの人たちに考えてもらいたいと、映像作家の丹下紘希さん(46)が周囲に呼びかけると、ミュージックビデオや広告映像の作家ら約40人が集まった。みなで絵本を読み、それぞれが担当した文章を独自の手法で表現していく。そうやって

できた作品をリレー方式でつなぎ、1年かけて7分半の短編に仕上げた。

「みかたの国が戦争をするときには、お金をあげたりもします」と説明された場面。アニメでは米軍が構

えるライフルに、日本人が硬貨を入れる姿で表した。総合監督の関根光才さん(39)は「制作過程で、法案が通るスピードが速く悔しい部分があった」と振り返った。丹下さんは「アニメは、今に不安を感じる映像業界の声でもある。戦争のつくり方を知ること、未来の平和のつくり方を知ってほしい」と願う。

4日まで上映

上映は東京都目黒区中央町の複合施設「CLASKA」で。2日は午後7時から、4日は午後3時と5時45分からの2回。問い合わせはメール(Info@nod.din.jp)。(小川崇)

「わたしたちの国は、70年ちかくなまえに、『戦争しない』と決めました。軍服姿の男性と、女子高生風の女の子が向かい合う映像

にあわせ、英語のナレーションと日本語の字幕が流れる。世界の人々に作品を届けるための仕掛けだ。絵本ができたのは、有事

法制の是非が議論になった2004年。法案に疑問を抱いた全国の主婦や学生らがメールで意見交換し完成させた。昨年には、集团的



「戦争しない」と決めました。



戦争のことは、ほんの何人かの政府の人たちで決めていい、という考えが作り手です。



学校では、いい国民はなにもしなければならぬか、をおそわります。



みかたの国が戦争をするときには、



なんかへんだが、と思っても、

軍人と女の子

政府の主導者

学校の授業

他国軍を支援

戦争のときの練習